

## (2) 東北



東北地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

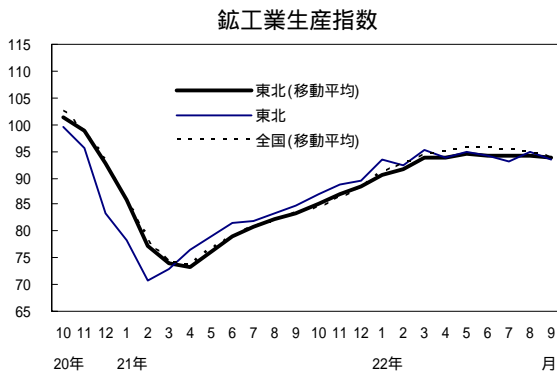
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
景況判断	持ち直しの動きが緩やかになっている	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる	おおむね横ばい	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している	
住宅建設	減少	増加	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路などについて金融危機後の上昇が一服したことから、減少している。食料品・たばこは、たばこ増税前のたばこの生産が一服したことから、減少している。一般機械は、油圧機器及び産業用ロボットなどで、輸出が好調であり、増加している。情報通信機械は、デスクトップ型パソコンなどについて生産が低調だったことから、減少している。化学は、医薬品、農薬などの生産が増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

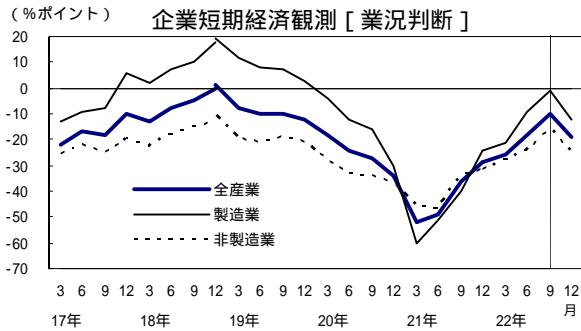
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	17.9	1.6	3.1	0.1	9.4
食料品・たばこ	11.8	0.7	2.3	2.0	26.6
一般機械	10.1	8.1	8.8	6.9	4.7
情報通信機械	9.6	5.2	0.1	4.3	13.2
化学	7.0	3.9	9.2	10.5	0.6
鉱工業	100.0	0.6	0.4	1.3	5.4

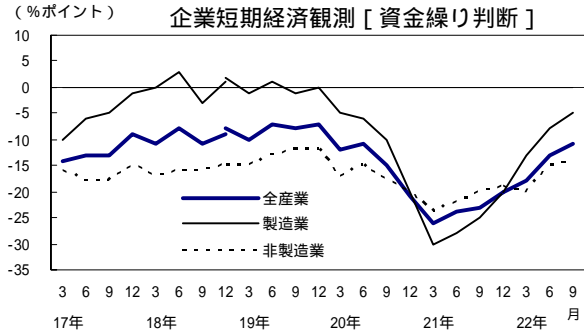
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

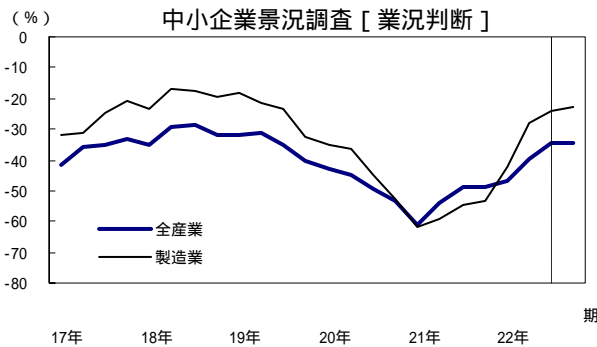
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

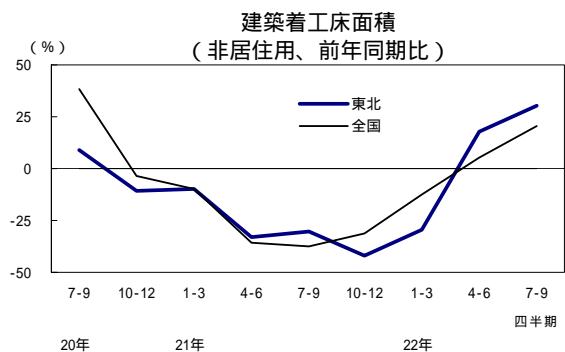
「当社で扱っている牛タンは、円高でも輸入価格が安くなることはないので、良くも悪くもなっていない(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	25.8	13.7 ( 0.3 )
製造業	31.3	9.5 ( 1.3 )
非製造業	14.1	20.8 ( 3.5 )

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

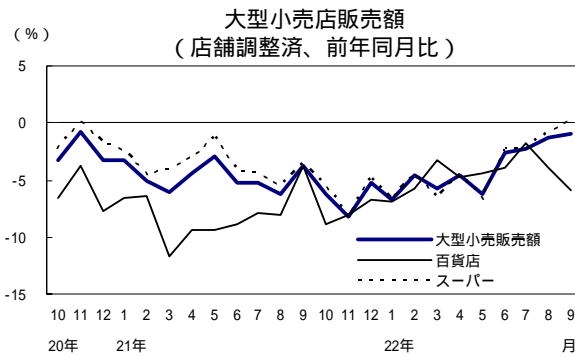
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、家庭用品が台所雑貨のほか冷蔵庫、エアコン等が好調で、前年比の減少幅が縮小した。8月は、猛暑の影響により秋物衣料が振るわず、前年比の減少幅が拡大した。9月は、家庭用品は台所用品に動きがあったものの、全体的に低調で前年比の減少幅が拡大した。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の10月の売上は前年同月比で0.3%減となっている。

スーパーは、猛暑の影響により飲料やアイスクリームが好調だったことに加え、衣料品の肌着やタオルが好調だったことから、前年同期比の減少幅が縮小した。

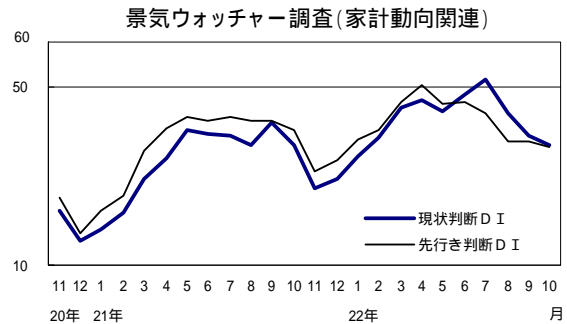
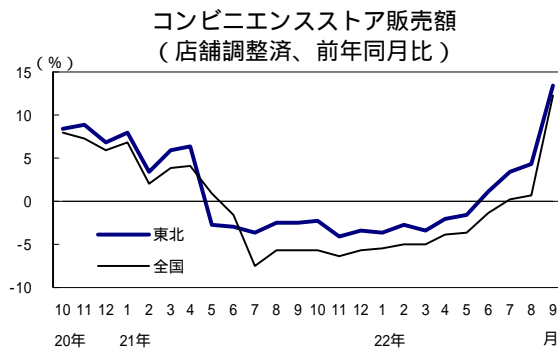
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「下旬になり気温が下がりはじめ、商品展開は秋物から冬物に変わってきている。それにつれて、客の購入金額も増えてきているものの、来客数は前年を割っている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	6.5	5.8	4.5	1.5
百貨店	7.8	5.3	4.5	3.7
スーパー	6.2	5.9	4.5	1.0
乗用車	18.5	21.5	23.0	5.4
景気ウォッチャー	31.3	39.4	46.5	45.1

- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。  
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は22年度累計でみると前年度を下回っている。

